

伊藤忠グループの企業理念

伊藤忠商事は2009年3月、当社が社会に対して果たすべき役割を全社員が正しく理解し、これまで継承してきた価値観を共有するために、企業理念の概念体系を整理しました。その浸透と、一人ひとりの確実な実践により「世界企業」の実現をより確かなものとしていきます。

伊藤忠商事の企業理念のルーツ「三方よし」

伊藤忠商事が幾多の歴史の荒波を乗り越え、150余年の発展を遂げてきた礎石は、初代伊藤忠兵衛が商道の原点としてきた「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」という経営思想です。これは、自社（売り手）の利益のみを追求するのではなく、取引先（買い手）、更には地域経済（世間）といったあらゆるステークホルダーの利益を尊重すべきという忠兵衛の出自である近江商人の価値観です。

当社は1992年、「国際総合企業としてこれからの社

会にどうコミットするか」を考え、実践するために企業理念「Committed to the Global Good. ～豊かさを担う責任」を策定しました。この企業理念の基本思想は、ビジネスを通じて、単に伊藤忠の利益だけでなく、これに関わる個人や社会の「豊かさ」を追求するというものです。つまりルーツは「三方よし」にあるのです。以来、伊藤忠商事は、あらゆる事業活動でこの企業理念が掲げる考え方を実践してきました。

— ITOCHU Mission —

Committed to the Global Good

豊かさを担う責任



伊藤忠グループは、
個人と社会を大切にし、
未来に向かって豊かさを担う
責任を果たしていきます。

— ITOCHU Values —

-  **先見性** Visionary
-  **誠実** Integrity
-  **多様性** Diversity
-  **情熱** Passion
-  **挑戦** Challenge

世界中の伊藤忠グループ社員が価値観を共有できるよう概念体系を整理

伊藤忠商事は、「魅力溢れる世界企業」の実現を目指しています。その成否のカギを握る「世界人材」の育成を進めていくためには、国内に止まらず、世界中の約6万人の伊藤忠グループの社員が、経営の根幹にある価値観を共有することが不可欠です。このような考えのもと、当社は2009年3月、伊藤忠商事が社会に対して果たしていくべき責任をすべての社員が理解し、日々の行動の中でそれを実践できるよう、企業理念の概念体系を整理しました。

「三方よし」を原点とする企業理念の中核概念「Committed to the Global Good. ～豊かさを担う責任」は不変とする一方、その位置付けを従来の

「Credo」から「ITOCHU Mission」に変更し、伊藤忠商事の存在価値を「伊藤忠グループは、個人と社会を大切にし、未来に向かって豊かさを担う責任を果たしていきます。」と明確化しました。

また、新たに社員一人ひとりが「ITOCHU Mission」を果たしていくために大切にすべき価値観を「ITOCHU Values」として明確にしました。「ITOCHU Values」を構成する5つの価値観は、伊藤忠が今後「魅力溢れる世界企業」を目指していくうえで重要な価値観を抽出し、また、伊藤忠商事の歴史をたどって、伊藤忠兵衛をはじめとする先人の残した言葉から伊藤忠商事に受け継がれてきた経営哲学を検証し、それらを集約したもの

です（下表「伊藤忠商事が継承してきた価値観」参照）。いわばこれまでの150年の発展を支え、また、今後の150年を担う考え方といえます。

これら「ITOCHU Mission」と「ITOCHU Values」の二つの概念により構成されているのが今回整理した企業理念です。

更に、従来の「企業行動基準」については、社員一人ひとりが、「ITOCHU Values」の実現に向けて主体的に行動し、日々の行動の中で、自身の取組を5つの価値に照らし合わせて検証する「5 self-tests」に整理、より実践的なものとなりました。

5 self-tests

- 

私は、より良い未来を創るために、周囲の意欲を高めて一緒に前進しているか？

- 

私は、その仕事に自分がかかっていると胸を張って言えるか？

- 

私は、最高の成果を生み出すために、様々な人の多様な視点や能力を活かしているか？

- 

私は、責任感をもって、熱い思いで取り組んでいるか？

- 

私は、積極的に新しいことに取り組んだり、新しい発想で解決を試みているか？

理念の浸透と更なる実効性の向上に向けて

伊藤忠商事では、企業理念をより実効性のあるものにしていくために「ITOCHU Values」を人事評価制度や研修制度に織込む予定です。また、「5 self-tests」と社内のさまざまな制度・基準を関連付けることで、一貫性のあるEthics Management Programも組み立てていく方針です。

2009年5月16日、全社員総会で世界中の伊藤忠商事の社員に発表した企業理念。今後は、小冊子の配布や社内のさまざまな対話の場を用いて浸透を図っていきます。



全社員総会の様子

伊藤忠商事が継承してきた価値観

先見性	Visionary	あるべき将来像を描き、そのビジョンと道筋を明確に示して周囲の意欲を引き出し成功に導くこと。 「ものごとの見通し、つまり観察力にたけており、常に前途に相当な計を立てていた」 「目の付け処が高く商売の性質よりしても百尺竿頭常に一步は進めておた」（二代目忠兵衛が語る初代忠兵衛）
誠実	Integrity	明言された約束を守り、裏表のない行動をし、どこでも誰とでも常に高い倫理観を持って接すること。 「人間は徹頭徹尾、誠実でなければならぬ」（初代忠兵衛） 「商売人はいかなることがあっても嘘をいわぬこと」（二代目忠兵衛）
多様性	Diversity	性別、年齢、国籍、勤務経験等の違いを受け入れ、尊重し、その多様性を活用してより良い成果を生み出すこと。 「店内の上下誠に融和して、和衷協同、一致団結という空気が張り、この点他店と比べて一頭地を抜いておた」（二代目忠兵衛） 「各店は互いに連携を保持し、常に和衷協同して能くその事務に励精すべし」（店法より）
情熱	Passion	取り組んでいることに集中してエネルギーを注ぎ、成功するまで強い意志を持ち続けること。 「何にしても仕事に対する熱の幅と質は深かった。つまり全精神を仕事に打ち込み、そしてその事業なるものは神聖で己れならびに己れの事業団体の存在は世に寄興し、光輝あるものとの信念の下に家業に当たっていた」 （二代目忠兵衛が語る初代忠兵衛）
挑戦	Challenge	いかに困難であっても強い意図を持って新しいことに果敢に挑み、創意工夫をして未来を切り拓くこと。 「私が外国へ行くということは、家や店ではタブーであった。（中略）とにかく店の全てを合理的に変えるには、なにが大きな勢いに乗らなければだめであることを思いついた。そのためにもまず洋行して新知識をえるべきだと、深く決心した」 （二代目忠兵衛）